



長野県大町市大町3887番地
 大町市土地改良区
 水土里ネットおおまち
 地域用水対策協議会
 TEL 0261(22)5542
 FAX 0261(23)0766

定例総会並びに 子ども絵画表彰式が行われました

年度末となる、三月二十四日(火)午後一時三十分より大町市役所東大会議室に於いて、平成二十六年年度水土里ネットおおまち地域用水対策協議会総会及び子ども絵画表彰式が行われました。

当日は定例総会に先立ち、大町北小学校五年生が米づくり体験をとおして感じた思いを絵で表現してくれた作品の中から、厳選に審査し、会長賞、理事長賞、努力賞三点について表彰が行われました。子どもたちは、とても緊張している様子でしたが、名前を呼ばれると元氣よく返事をして、牛越会長から一人一人に手渡される表彰状と副賞の記念品を笑顔で受け取っていました。また表彰式にはご家族も同席されており、子供達が表彰されている様子を嬉しそうに見守っていました。最後に表彰者全員で記念撮影を行い、無事に表彰式展が終了しました。



定例総会では、平成二十六年度事業報告並びに収支決算報告がされ、続けて平成二十七年度の事業計画並びに予算案等が提出されるといずれも満場一致で承認されました。

今年で当協議会も大町、平、社地域全域を活動範囲とし、新たに設立してから8年目を迎えました。

これまで多くの人たちに用水路の大切さや重要性を認識してもらったための活動を展開してきましたが、そのなかでもふれあいイベントの開催、機関誌

の発行や市内小学校の野外学習に協力するなどの活動については一定の評価を頂いていると自負しております。しかし、さらなる展開をするためにも地域の皆様からのアイデアやご意見を頂戴し、今後の運営に役立てたいと思っております。ぜひ貴重なご意見をお聞かせください。



恒例になっていくふれあいイベントは今年で十六回目となりますが、合わせて行われている案山子コンテストも五回目を迎え恒例になりつつあります。毎回、イベント参加者の投票により優秀作品を選考してきましたが、回を追うごとに作品のレベルも上がり、どの作品に一票を投じるか悩ましいところでもあります。

そんな案山子について、どのような語源・由来があるのか調べてみました。

一説に案山子は、古くは髪の毛や魚の頭などを焼き、串に刺して田畑に立てたものであり、悪臭で鳥や獣を追い払っていたことから、これを「嗅がし(かがし)」と呼び、清音化されて「案山子(かかし)」となったと伝えられています。ただし、竹や藁で作った人形が使われるようになってからも、しばらくは「かがし」が用いられており、「かかし」という清音形は近世以降に関東地方から始まり、江戸時代後半に関西地

方でも「かかし」が使われるようになってきたと言われています。

また漢字の「案山子」は、元々中国の僧侶が用いた言葉で「案山」は山の中でも平らなところを意味し、「子」は人や人形のことである。

語源由来辞典より

最近あまり見かけることが少なくなった案山子ですが、古くから田畑を守るため、先人が知恵を絞り作り上げてきたものが、現代に受け継がれていることにロマンを感じます。このように歴史ある案山子をみなさんも作ってみませんか？

今年も八月二十二日(土)に行われる「ふれあいイベント」で案山子コンテスト作品募集をしています。昔ながらの案山子、時代を象徴した案山子など題材は自由です。



昨年の優秀作品

※詳しい応募方法は広報おおまち及びふれあいイベント「土・人・水」の募集ポスター、ホームページなどに記載されています。

総合的な学習の時間

足踏みによる 代かき体験

大町西小学校の児童が、足踏みによる代かきを体験する授業があった。横一列に並んだ5年生は水を張った田んぼを往復し、足で土をほぐした。

作業は昔ながらの代かきをすることで、水のありがたみや先人の思いを体で学ぼうと実施され、機械のない時代の作業は苦勞が多かったことや昔の農耕具の不便さを体験した。5年次の社会科や理科、総合の米づくりの学習に関わって、この他にも地域の用水路の役割や重要性を学んでいる。

学校横にある約5アールの水田に集まった5年生50名は、恐る恐る田んぼに足を踏み入れていたが、すぐに慣れ、泥の中に寝転んだり、泥で顔を真っ黒にしたりして泥の感触を楽しんだ。その後、お互いの手をつなぎ横一列にゆっくりとしたテンポで、土をグッと押すように足踏みしながら何度も往復して土を柔らかくした。さらに、代かき棒を引き平らにならした。仲間と一緒に初めての足踏み代かきに励んだ児童は、生き生きとした表情を見せた。

この5日前にはトラクターでの荒じろの見学をした。作業の様子を見た児童は、「前より土がやわらかくなっていて」「荒じろをする前はデコボコしていたり、藁(わら)や草がでていたりしたけどなくなつた」など色々な感想を述べた。また、地主の平林さんに「荒くれて一番難しいことはなんですか?」と尋ねると、「うんと平らにすること。深い所、浅い所がないようにすること」という声にうなずいていた。そして、最後にトラクターについた泥を触り、その感触を確かめていた。



土をさらに細かくトトロ口に...

今では、農村部でも昔ながらの代かきをする姿を見ない。普段できない経験を通して、農業が自然と一体となつて営まれていること。そして、一粒のお米を大切にされた昔の人たちの思いを肌で感じとってくれたら嬉しい。

暮らしをうるおす 水の学習

米づくりに関連し地域の水利について学習している大町西小学校5年生の児童が、大町市を流れる川の起源や用水路の役割、重要性について学習する機会があった。

学習は、JA大北育苗センターで地域の米づくりの様子を見学した後、キャンプへ向けてフィールドワークを学ぶ途中立ち寄った、平借馬「こぶしふれあいパーク」で行われた。広場には北荒沢堰があり、多自然型の水路として地域住民の方々が手作りした石張りや植栽された草木が心を和ませる。上流の越荒沢堰は歴史ある用水路で、今でも、大町市民の生活のために利用されている。

まず「川と水路の違いがわかりますか?」と西山主事が尋ねると、「川は自然にあるもの。水路は人工的に造られたもの」と声が上がった。「鹿島川や高瀬川など雪解け水や雨水が流れ出たものを川と呼び、昔の人が農業や防火、流雪など様々な目的のために造つたものを水路と呼んでいます」と具体的に説明すると熱心にメモをとっていた。また、先人の苦勞話や地域の方が大切に管理している広場の様子、学校の周りを流れる御所堰の由来や役割の話に



せせらぎの音、さわやかな風とともに

も真剣に耳を傾けていた。最後に、「大町市内には、他にもたくさん水路があります。生活に欠かすことのできない水路を、地域の皆さんが守ってくれていることに感謝し、皆さんも水を大切に作る気持ちを持って、皆さんも水を大切にしてください」と伝えると、水の大切さを改めて感じたようだった。

広場周辺にはのどかな田園風景が広がっている。農家や用水を管理する人の支えによつて私たちの暮らしや景観が守られていることを多くの人に知ってもらえるよう活動を続けていかなければならない。暮らしに潤いをもたらす水を大切に守っていくことは、私たちの大きなつとめである。

源汲集落と西堰の役割

江戸時代から現在に至るまでの平地区の村落の統廃合史料には、不思議なことと比較的大きな集落である「源汲（げんゆう）」の名が見えませんが、古くからの集落なのに、なぜ記載されていないのでしょうか。実は、源汲と二ツ屋の両集落は、今から四百年ほど前に松本藩主が借馬村の一部を分け寺領として大沢寺に寄進したもので、それを江戸幕府が追認し、国の公式図面にも駒沢村と表記されました。しかし、独立した村落でありながら行政的には松本藩の管轄下におかれるという複雑な支配形態をとり、住民も駒沢村という名称をほとんど用いず「源汲（下行）（げぎょう）」や「門前（もんぜん）」など旧来の集落名を使用し、さらに明治を迎えた段階で再び借馬村の一部とされたために、このような結果になっているのです。この源汲集落と下流の北条屋敷、大出など鹿島川右岸を漕がしているのは、鹿島川に並行して流下する源汲西堰、中堰、東堰の三本の用水路ですが、今回は、このうち西堰の歴史的な経過について考えてみましょう。

現在の西堰は、矢沢の下流で大町市の水道水源の余水と鹿島集落の残水から取水していますが、本来は矢沢の流末から直接取水していたようです。古くから借馬村は、矢沢と町川（現在の

越荒沢）を利用して薪や材木を搬出していたので、江戸時代には借馬村の使用に支障がないよう配慮するとの取り決めがなされてきました。源汲が大沢寺領とされたのが約四百年前であることから、この西堰が開鑿（かいさく）されたのは、古く見積もつても室町時代以後のことと考えられます。中堰の方が西堰より古いとする見解もあります。鹿島川から直接取水する中堰と違って、沢水から容易に取水でき、安定した段丘上を導水している西堰の方が早くに開かれ、これによって源汲集落の原型が形成されたものと考えられます。

取水について配慮するよう規定されていましたが、源汲では生活や飲用、漕がいのほか麻や氷餅、凍み豆腐の製造など多方面にこの水を使用し、集落が大きくなるにつれて水争いも起きました。また耕地の増加と共に中堰、ついで東堰が開鑿（かいさく）され、さらに二百年ほど前には、鹿島川の氾濫（はんらん）によって源汲集落の半分以上が流失するという大災害もあり、周辺村々の協力を得て水防工事が実施され、西堰の役割は次第に飲用や生活用水が中心になりました。

その後、源汲が借馬村の一部とされた明治四年には、両村間で以後は源汲

が自由に矢沢から取水してもよいとする取り決めがされ、さらに昭和三八年には矢沢の湧水（ゆうすい）を常盤地区の上水道の水源とするについて大町市が責任をもって西堰の全面的な改修を行うことが確約されました。この間には、高瀬川上流総合開発に併せて温泉郷付近で大町新堰から水量を補給する工事が行われ、さらに鹿島川からの取水施設の改良に伴って許可水利権に移行されました。

当事者間で権利を取り決める古い慣行的な水使用から国が使用水量を許可する新しい水利制度への変化は、理解しがたい面もあったものと思います。この西堰の歴史は、地域住民の労苦の積み重ねの上に現在の水利用が成り立っていることを私たちに教えてくれます。

（文責 荒井今朝一）



源汲堰の取入れ口

ふれあいイベント
「土・人・水」
案山子コンテスト
参加者&作品募集

恒例になった、ふれあいイベントは、今年で十六回目となります。昨年同様、越荒沢堰親水広場周辺の雑草取り、子どもを中心とした魚のつかみ取り、稚魚の放流を行います。

また、今年は「農産物ミニバザー」を開催します。おいしい野菜・果物を用意して皆様のご来場をお待ちしております。「案山子コンテスト」は、たくさんの出品作品を募集しますので、左記事務局までお問い合わせください。

なお、当日は昼食（おにぎり）とお茶を用意します

◆主催 水土里ネットおおまち

地域用水対策協議会

◆日時 八月二十二日（土）

午前八時開会

正午終了予定

◆会場 平小熊原

越荒沢堰親水広場

水土里ネットおおまち

（大町市土地改良区）

TEL: 221-5542

E-mail midori-net.omachi@res.ocn.ne.jp
http://www.midorinet-omachi.jp/

- お詫びと訂正 -

大町市広報8月1日号折り込みの土地改良区機関紙「土・人・水」第17号に一部誤りがありました。4面「ふるさと田んぼと水」子ども絵画展2014理事長賞受賞の水口裕太さんの絵画が誤って掲載されてしまいました。

受賞された水口さんをはじめ、関係者の皆様に不快な思いをさせてしまったことを心よりお詫び申し上げます。

水土里ネットおおまち・地域用水対策協議会

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2014

大町北小学校6年生が5年次に米づくり体験を通して感じた思いを、力強いタッチで表現してくれました。寄せられた作品は水土里ネットおおまち地域用水対策協議会において審査を行い、協議会の席上で牛越会長より表彰状と記念品が贈呈されました。受賞作品は次のとおりです。

会長賞



「いっぱいとれたなあ！」
福嶋奈美さん

理事長賞



「がんばった稲かり」
水口裕太さん

努力賞



「さあ!かりとるぞー!!」
國府方翔月さん



「稲をかるわたし」
柴山五月さん



「稲刈りをしている自分」
堀中淳弘さん